

☆羅針盤 No.99

東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4
電話 03-3790-1751
URL <https://www.tokometal.co.jp/>
(見学受付)
電話03-3790-1751 又は 各営業担当

梅雨の季節。うとうとし長雨で仕事にも影響が出たり、外出時には嫌なものです。田植えの時期でもあり、雨を待つて夏に備えるダム、公園の木々の緑は一雨ごとに色彩を変えていて、緑の色はこんなに多種有るのかとびっくりさせられ、爽やかなころ持ちになります。まずは、長雨の湿気で体調を崩したりしないようにし、梅雨だからと暗い気持ちにならずに雨期を楽しみましょう。

*そして・・・6月は環境月間です。環境省の主唱により、関係府省庁、地方公共団体等の参加と協力を得て、全国各地で様々な環境関連行事が実施されます。環境省が毎年推進している「クール・ビズ」は、地球温暖化防止を目指し、冷房時の室温28℃を目安に夏を快適に過ごすライフスタイルで、今年も5月1日から始まっていますが、既に常識として普及しているかチェックをする。廃棄物の分別バトロールを実施する。コンビニでは、レジ袋削減の声をかけしようなど国全体が環境を意識する月です。「私一人が気をつけても何も変わらない」といわずに、有名な「はちどりのひとしずく」の気持ちになり、皆が自分のできることをやることで次世代へ青い地球を残してゆく努力の月にしたいものです。
*東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物処理を“いつでも”お受け致します。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



☆羅針盤

- 鉄スクラップ → 考察
- 銅 → 考察
- アルミ → 考察
- プラスチック ↻ 考察

5月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	○
銅	×	プラスチック	○

鉄・非鉄スクラップ・市況からの6月予測

営業部 Y の考察

5月は大型連休後の値戻しが進み、東京製鉄宇都宮工場特級価格は33,000円/トンから36,500円/トンまで上昇。しかし輸出主要国である韓国・トルコが消極的なため価格は下がりました。6月は国内メーカーだけは盛んな見通しですが、月初上がっても横ばいになるでしょう。

5月の後半はLMEが6,900ドル/トンまで上昇。国内銅建値は、最終的には790,000円/トン。6月は円安が進んでいる事や、世界最大の銅鉱山チリのエスコンディダで労使交渉が長期化の恐れがあるため月初から上がるでしょう。

5月LME2,170ドル/トン台でスタートし、最終的には2,200ドル/トン台まで上昇しました。アメリカの輸入関税の影響もあり、6月は上がると思われる。

中国及び他国経由の輸出がほとんどできなくなり、産廃への移行が進んでいます。行き先はRPF製造業者。しかし、売却先の製紙会社も買い意欲が弱く、品質チェックもより厳しくなり、焼却場に流れているのが現状です。今後ますます、廃プラスチックの行き先が厳しくなるでしょう



東京都産業廃棄物協会 女性部(e-lady21)の一人として

総務部 課長 山下 田鶴

こんにちは。3回目の登場となりました、人事の山下です。今回は1回目でご紹介させていただいた中から、東京都産業廃棄物協会の女性部(e-lady21)としての活動状況について少し書かせていただきます。

この記事を読んでいただいている方にはおそらくメンバーの方もいらっしゃるかと思います。いつも大変お世話になっております。そして今後ともよろしく願いいたします。m(_)_m

そもそも女性部に参加したきっかけは青年部と合同で行っていた協会の採用支援プロジェクトに参加させていただいたことでした。採用支援PT(プロジェクトチーム)=女性部または青年部。ということで女性部に加わらせていただいたわけですね。

参加してみると、若手から社長様まで幅広い方々と交流をさせていただくことができ、毎回勉強させていただいております。同時に若手は、すでに長いキャリアになってしまった私からいろいろと盗んでいってほしいなあと感じています。

前置きが長くなりました。本年度は社会貢献チームの一員ですが、昨年度までの環境教育チームとしての活動を紹介させていただきます。

採用支援PTからの依頼で、新卒対象となる大学生に業界のこと、活動、役割を知っていただくための出前講座を女性部の環境教育チームとして担当する。と少々ややこしい状況で、日本工学院八王子専門学校、武蔵野大学、そして東京都市大学と、3校で環境教育授業を行いました。

ほぼゼロから、チームでの授業コンテンツづくり、個人としては授業のパワーポイントの作成、そして当日の業界ビジネスの講義。授業枠を割いていただく先生方にも、採用支援事業の一環として活動する我々にもそれぞれに思惑と伝えたいことがあり、生みの苦しみは結構なものでしたが、最終的にこの活動は、循環経済新聞と環境新聞などにも取り上げていただき、苦勞した甲斐のある充実した内容となりました。

コンテンツの生みの苦しみ。これは非常に貴重な経験になります。構成を企画する(各パートのテーマを見つける)、間違ったこと、嘘偽りを教えるわけにはいかないので、考察する、勉強する、調べる、理解する、聴衆について調べ、理解促進できる方法を考える。業界歴の浅い私にとっては一気に業界に入り込むいい機会となり、前回取り上げたSDGs(Sustainable development Goals=持続可能な開発目標)のディスカッションもワークショップとして実施するなど素晴らしい経験となりました。せっかく作ったコンテンツです。今後も活動の中でお届けできる機会を作ることに取り組んでいきたいと考えています。

実現の際にはぜひご支援もよろしく願いいたします！

☆羅針盤

平成30年版環境白書

(環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書)

白書をご存知ですか？また白書を読んだことが有りますでしょうか？
白書(はくしょ)とは、日本の中央省庁の編集による刊行物のうち、政治社会経済の実態及び政府の施策の現状について、国民に周知させることを主眼とするもの。政府の施策についての現状分析と事後報告を中心とした公表資料。統計、図表、法令などのデータ集は含まれない。日本において初めて作成された白書は1947年(昭和22年)7月4日公表の経済実相報告書(経済白書)

「白書」の由来は、英国において、内閣が議会で提出する公式報告書をその表紙の色からホワイトペーパー(White Paper)と通称していたことから日本でもそれに倣って政府が作成する報告書の通称を白書と呼ぶようになったとのこと。(出典Wikipedia)

首相官邸のホームページで「白書」を見ると、人事院(公務員白書)、内閣府(経済財政白書/原子力白書/高齢社会白書/障害者白書 他)、警察庁(犯罪被害者白書 他)、消費者庁(消費者白書)、法務省(犯罪白書)、経済産業省(通商白書/製造基盤白書=ものづくり白書)、防衛省(防衛白書)その他各省庁の白書が発行されていますが、外務省に限って(外交青書)と呼び、白の字を使いません。これももともとは、17世紀の英国議会で、外交官の報告書をブルーブックと呼んで青い表紙を使っていたのを外務省が取り入れたものとのこと。

さて、掲題の「環境白書」は(平成30年版は6月5日に閣議決定)正式には環境白書、循環型社会白書、生物多様性白書の3つの白書で、それぞれ、環境基本法、循環型社会形成推進基本法、生物多様性基本法に基づく国会への年次報告書であり、平成21年版から3つの白書が合冊されたものです。

平成30年版は「地域循環共生圏の創出による持続可能な地域づくり」をテーマとしており、

- 概要(<https://www.env.go.jp/press/files/jp/109259.pdf>)によると、
- 第五次環境基本計画に至る持続可能な社会への潮流
 - 地域課題の解決に資する循環共生圏創造
 - 地域循環共生圏を支えるライフスタイルへの転換
 - 東日本大震災及び平成 28 年熊本地震からの復興と環境回復の取組

など、地域資源を持続的に活用することで地域に活力をもたらす取組や、ライフスタイルの転換に向けた取組等について、我が国で既に始まっている先進的な取組事例等を紹介した図絵で、楽しく学べます。「英語版」もあり、「白書を読む会」も予定されているようです。興味のある方は、環境省ホームページでご確認ください。